

勝利争闘ジェット三里塚 / 砕粉革行・調臨

# 『57・11ダイ改』と一定の集約

11月14日  
15時をもって

## 動労本部革マルの敵対を粉碎し、12月ゼネスト!

「57・11ダイ改」交渉は、11月14日早朝に修正提案された協定原案をめぐる、この間、動労千葉は「労働条件について中央協定で明確にせよ」と主張して、精力的に国鉄当局を追及してきた。しかし、すでに11月10日の段階で当局の言うなりに早々と「片仕切り」をもって屈服し妥結してしまった動労「本部」革マル、鉄労、全施労の裏切り、また、ぎりぎりの段階での国労の一定の集約という状況の中で、動労千葉は対決点を明確にしつつ、14日の15時をもって、「今後、地方交渉の中で協定化していく」ことを当局に通告し、一定の集約をおこなった。

### 「中央協定」を拒否する 当局の不法・不当と対決

「57・11」をめぐる交渉の過程で、当局は不当にも、これまでの経過を一方的に破り、従来から行ってきた「中央協定の締結」をかたくなに拒否してきた。

すなわち当局は、「ダイ改に伴う労働条件に関する協定」の中に、「労働条件の維持改善を行う」「必要な要員は確保する」等の従来の4項目を挿入する事を不当にも拒否し続け、国鉄のおかれた状況を認識し、：円滑な実施をはかる。との当局の論理で貫かれた「ダイ改協定」文書での調印を強要してきたのである。

これは、「ヤミ、カラ、キャンペーン」をもって開始された一連の国鉄労働運動解体攻撃が、25万人体制にむけて新たな段階に入ったことを示している。これは労働組合そのものを無視抹殺する断じて許せぬ攻撃である。

動労千葉は、当局の不法・不当な姿勢に抗議し、10月26日以降、三六協定破棄・非協力闘争に突入し連日の交渉で厳しく当局を追及するとともに、13日より順法闘争と15日に3時間のストを構えて闘いに入った国労との連帯・共闘の立場を明確にさせて、ぎりぎりまで闘いをおし進めた。

### 当局の番犬そのもの / 動労「本部」革マルの犯罪行為を許すな

ところで、自民党・国鉄当局との酒席談合をもってあの「ブルトレ」での裏切りをおこなって以降急速に当局の先兵化を深めている動労「本部」革マルは、11月10日に今までの労使慣行を一方的にぶちこわす、当局への全面屈服を示す協定をまたしても鉄労等と仲よく手を組んでいち早く「片仕切り」を強行し、当局への忠誠ぶりをいかんなくさらけ出した。しかも、この大裏切りをおこなった上に、あろうことか当局に「早く国労にも同じ内容で認めさせろ」とせきたて、更に、国労のスト支援を決定した総評に正式抗議を申し入れ、

「今日の情勢下でこの闘いが適切なのか。総評は責任をもって国労のストをやめさせるよう指導せよ」とスト圧殺を申し入れるという、まさに労働組合の風上にも置けない腐敗した二重三重の犯罪行為を行ったのである。

「貨物安定宣言」に始まり、「53・10」「55・10」を裏切り、「働こう運動」を路線化するに至った動労「本部」革マルは、今や完全に臨調・自民党・国鉄当局の武装親衛隊となり果て、「ブルトレ旅費返済」「乗車証制度改悪」「現協制度改悪」(つまり「緊急措置11項目」の全てに)に応じ、ついに「57・11」では鉄労と手を組み公然と当局の側に立って国労、動労千葉破壊・スト破り攻撃にうって出てきたのだ。国労からも「新たな産報的労使協調の宣言」と批判されているような典型的な右翼的・御用化・産報化路線の協定を率先して締結し、闘う労働者を鎮圧してまわろうという動労「本部」革マルの一掃なしに、反合闘争の勝利、国鉄労働運動の戦闘的再生は絶対にありえない。

### 「激動の5カ月」を闘いぬこう

57・11は、国労が14日の7時30分に闘争中止を指令するという状況の中で、動労千葉も15時に一定の集約を行ったが、政府・国鉄当局のかさにかかった攻撃に対し、労働者の怒りは今や頂点に達している。「検修下廻り合理化」「年末手当獲得」の闘いを「仲裁々定完全実施要求」の12月ゼネストと結合させ、今から83年春の三里塚二期決戦と結合した国鉄決戦の大爆発、春闘・中江選挙闘争勝利をめざし、「激動の5カ月間」を全力で闘おうではないか。

### 中2回支部代(1/3)開かれる

これより先、11月13日に開かれた第2回支部代表者会議は、「57・11」をめぐる動向の意志一致と当面する取り組みを討議決定した。概略は、①「57・11」動向と方針。②現協問題、更に交渉を継続・強化し、12月以降の無協定下での闘いをも準備する。③仲裁々定完全実施。12月ゼネスト実現にむけて、12月初頭に委員会、10日に総決起集会を開催。④中江選挙闘争。⑤検修下廻り合理化粉碎闘争。他。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!